



防潮堤の上からの砲台



西宮砲台の北側の外郭(防波堤内側の児童公園部分)の石

西宮砲台

国指定史跡

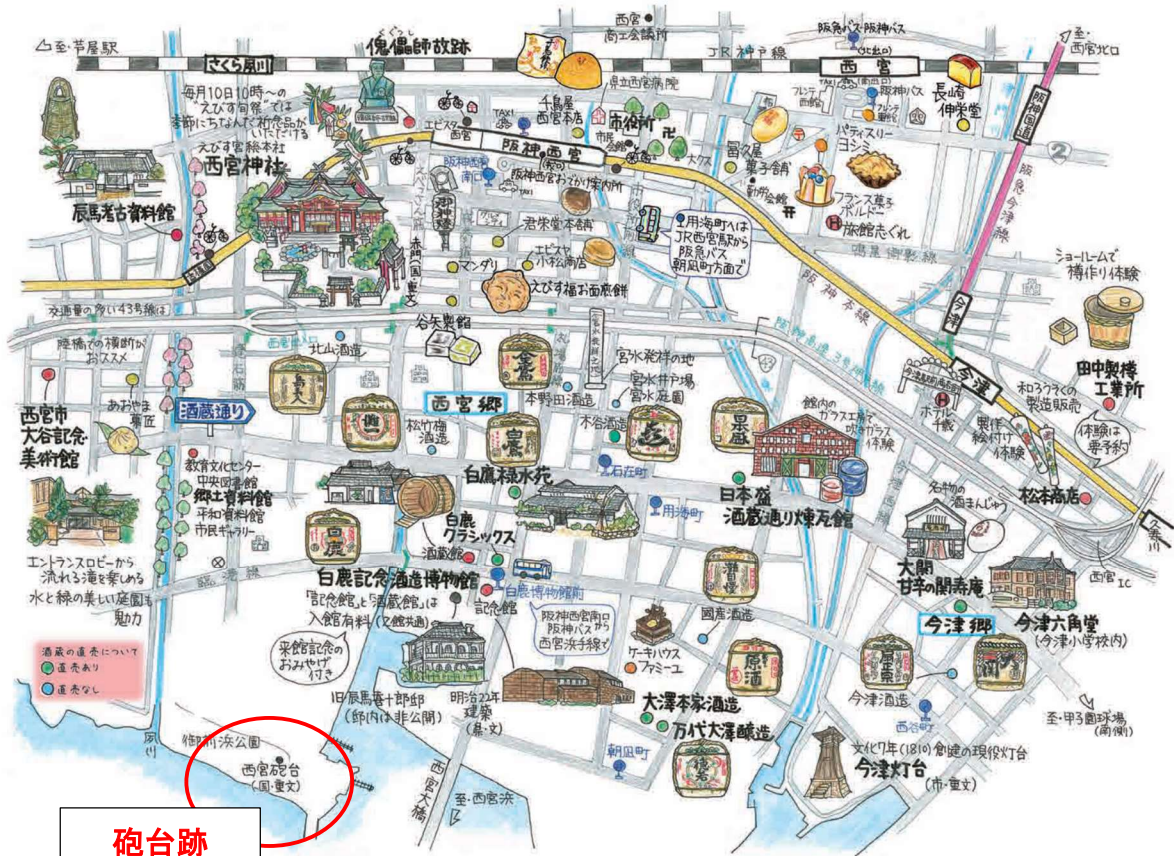
所在地 西宮市西波止町字西波止 所有者 阪神電気鉄道株式会社 管理者 西宮市教育委員会 大正11年3月9日国指定

江戸時代末、国防不安を感じた江戸幕府は、大阪湾に砲台を築き、本格的な摂海防備に着手しました。砲台の位置は勝海舟が計画し、西宮ではこの「西宮砲台」のほか、今津にも築かれました。

西宮砲台の建設は、1863年(文久3)に始まり1866年(慶応2)後半になってようやく完成しました。砂地に建てるため多数の松グイを打ちこんで地盤をかくし、その上に、瀬戸内海中部の島島から運んだ花こう岩を積み上げています。通常の2倍の賃金を支払って熟練工を集め、突貫工事で完成を急ぎましたが、あしかけ4年を要する難工事となりました。

砲台の高さは約12m、直径約17mで、外側には漆喰が塗られています。2層目に見られる12個の孔は、大砲で四方をねらうための11個の砲眼と窓で、内部には井戸・弾薬庫が設けられました。完成後試射をしましたが、煙が内部に充満し実際に使うことはありませんでした。

内部は、明治17年に焼損。その後、昭和49年に修復工事が始まり崩壊しないように鉄骨で補強されている。

砲台跡